

理解度&釣れる度100%



マルキュー

優良 餌本



実寸大
エサ付け
&
オモリ
解説付き

サエハ パワーブック

POWER BOOK

2011

夏秋



Contents

02 両ダンゴの浅ダナ釣り

08 両ダンゴのチョーテン釣り

14 ヒゲトロセットの浅ダナ釣り

20 ヒゲトロセットのチョーテン釣り

26 ペレットエサの宙釣り

32 一発セットのチョーテン釣り

35 魅系バラケ・共エサ性質表

両ダンゴの浅ダナ釣り

①軽くてエサ持ちのよいタイプ

ガッテン600cc＋
浅ダンナー一本400cc＋水200cc



●作り方

「ガッテン」と「浅ダンナー一本」をボウルに入れ、水を注いだら指を立てて20回ほどかき混ぜる。片側に寄せてエアーを抜いて使う。

●特徴

へら鮎が湧き気味になるようなとき、ウキがたってナジミ始めたところから反応させ、早いタイミングのアタリをとっていく釣りに向いている、軽くてエサ持ちに優れたブレンド。

●使い方のコツ

表示どおりに作って柔らかいと感じるときは「ガッテン」を足して調整。打ち始めで、もし、エサ持ちが悪ければ（ウキのナジミが浅い）5回ほど混ぜて様子を見る。それでもナジミが浅いならもう5回ほど混ぜていく。釣っていてエサ持ちが悪いようなら「粘力」をスプーン1杯追加したブレンドにする。軽さを活かしたいので、練り込んで持たせるよりは硬さで持たせていくこと。

ブレンドの考え方



へら鮎の反応が強すぎるときは、「粘カ」を追加ブレンドすることで、開きを抑えることで対応したい。このときのブレンドは、「ガッテン」600 cc+「浅ダナー本」400 cc+「粘カ」スプーン1杯+水 200 cc。

ネバリで開きを抑える



独特のソフトなネバリがエサ持ちをアップ。しかも、軽く仕上がり、膨らむようにバラけるので、へら鮎の反応もよく、違和感少なく食わせられるので、追わせて釣る釣り方には最適だ。

エサ持ちと膨らみを強調

ベースエサ ガッテン



ブレンドのベースとなる「ガッテン」は、魚にもまれても、タナまでしっかり持つうえ、エサのまとまりがよく、芯がしっかりと残るもの。これに何をブレンドするかでエサの方向性を決めていく。

重くする



軽さを活かして釣っていくブレンドなので、重さを付けるときは一気に重くしたくないので「グルバラ」をパラパラ振りかける程度にとどめたい。

粘りすぎを解消



エサがネバってきて開きが少なくなると、へら鮎の反応が悪くなり、ウキの動きがおとなしくなってしまう。そんなときは「スーパーダンゴ」か「バラケマツハ」を足してエサのバラケ性を促進する。

両ダンゴの浅ダナ釣り

②タナで釣っていくタイプ

ダンゴの底釣り夏 100cc + 水 100cc + GTS300cc



●作り方

「ダンゴの底釣り夏」をボウルに入れ、そこに水を注いでかき混ぜて5分ほど放置する。その後「GTS」を入れてムラにならないよう全体をしっかりとかき混ぜる。

●特徴

タナで釣っていくイメージのエサで、へら鮒が湧くような状態でも落下中のエサへの反応が悪いとき、タナで釣ったほうが型が揃うときに効果的なブレンド。

●使い方のコツ

エサをしっかりタナへ入れて使っていくエサなので、まずはきちんとナジむようにエサ付けすること。これを補うためにも少し大きめのウキを選択したい。前ページのブレンドと対極なので、このブレンドが効かないときは①の軽いブレンドに変更する。

ブレンドの考え方



重さとまとまりでタナにエサを入れていくブレンドだが、へら鮎の反応を少し多くほしいときは、「スーパーダンゴ」を足してバラケ性をアップする。

開かせる



タナまでエサを持たせる「ダンゴの底釣り夏」に対し、タナでの膨らみとバラケの粒子を漂わすことでへら鮎の興味を引き、タナに寄せ続けるのが「GTS」の役割となる。

膨らみを促す

ベースエサ ダンゴの底釣り夏



名前のとおり底釣り用のダンゴエサだが、その重さとエサ持ちの良さをベースにすることで、へら鮎の活性が高い盛期でも確実にタナまで持ち、ハリのフトコロに芯残りしてくれる。

持たせる

よりエサを持たせたいときは「ダンゴの底釣り夏」を足して重さとまとまりをアップさせよう。また、ネバリで持たせたいときはエサを練るのではなく、「粘力」をスプーン半分程度足してみるとよい。



両ダンゴの浅ダナ釣り

釣り方の基本とコツ

まず、落とし込みの操作ができるサオの選択が重要です。とくにメーター規定があるところでは、オモリを支点にハリスの長さ分の上下がならえる範囲(70cm〜1m30cmぐらい)なので、このラインに幅広く台形状にへら鮎を寄せることが大事なのです。これを振り切ってしまう

とこの台形が崩れてしまい、これが拡大するとエサが入りにくくなり、無理に入れるようになってしまいますので、自ら釣りにくい状況を作ってしまうのです。落とし込みならたとえ上ずらせても突破できます。これが地合を作るポイントなのです。

加えて、落とし込みのメリットとして、ウキが立つタイミングが早くなり、ウキに現れる変化をいち早く見られますし、エサも必要以上に持たせることなくタナへ入

れるるので、正解の接点も広くとれるのです。

さらに、この釣りでは、寄せながら釣るというダンゴ釣リリズムも大切で、そのためのテンポも重要になってきます。そのテンポを作っていくためにも落とし込みは大きなポイントを占めるテクニクなのです。

続いて、打ち始めからしばらくすると良い感じで釣れてくるようになりますが、だいたいそこからおかしくなってくるはず。寄り始めは、食い気のあるへら鮎が適度な量なので釣れるのですが、次第に寄りが多くなると、食い気のあるもの、乏しいもの、型の大小など色々なへら鮎が寄ってきます。そうになると、へら鮎をコントロールするのがむずかしくなってくるわけです。ここでどう対処するかが次のステップ。

①ウキが立たなくなる

ウキが何で自立するのかを再確認してください。答えはオモリ量です。ですから、ウキが立たなくなったときにはオモリ負荷量の多いウキに代えていかなければなりません。

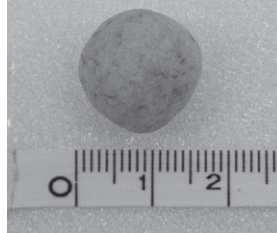
魚のいない状態でのウキの立つタイミングを事前に知っておくと、ウキの立ちが遅くなったことが感じられます。また、この逆もあり得ることを覚えておきましょう。

②アタリが多くなってしまう

今度はハリスの長さが問題となってきます。短いハリスの場合はダイレクトにウキに動きが伝わりやすい。逆に長いハリスだとなじむまでに時間が掛かるので、へら

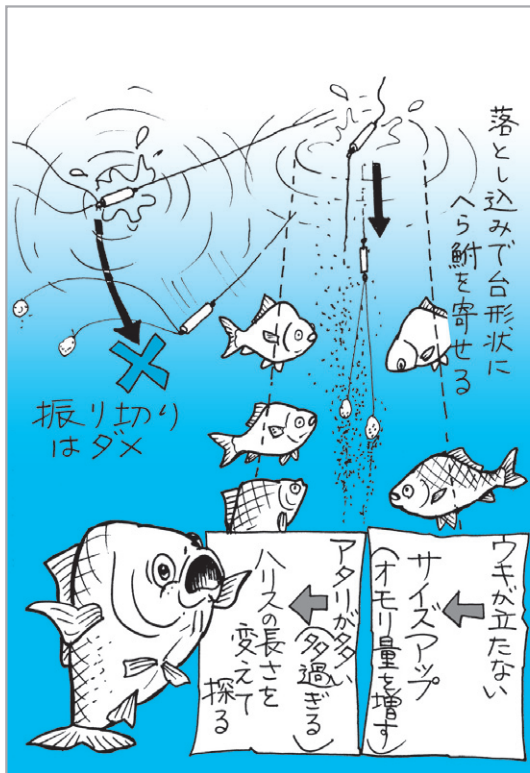
●エサの大きさ

実寸大



鮎に遊ばれやすくなります。両ダンゴの浅ダナ釣りでは、最初のアタリに手をだしていくことが多いのですが、それが良いアタリなのか？ただウキが動いただけなのか？ハリスが長くて遊ばれている動きをアタリと勘違いしていることもありま

す。このあたりを意識してアタリを絞っていくことが肝心で、釣れない、カラツンばかりという場合に、その対応をいきなりエサに求めるのではなく、ハリスの長さというセッティングの部分をかき



に見直してください。

③釣り込んでいくには

ウキが立ってサワリがありながらトップにエサの重さが掛かってナジミが少しずつできてきます。このタイミングで力強くズバツクイアタリがでるのが理想です。ここで、注視して欲しいのがウキが立ってからの受けです。受けが長ければそ

れだけエサにへら鮎が反応

している証拠ですのでチャ

ンス大です。逆に受けが少

ないときは魚が少ないので、

クラブリやイトズレになり

やすいのです。

理想の形をひとつひとつ

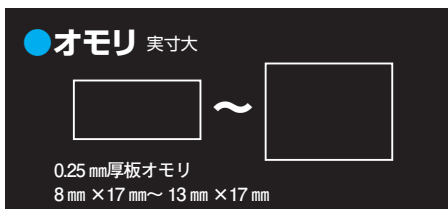
チェックして、おかしいと感

じたところを修正するのが

釣り込むためのコツです。

タックルセッティングの注意点

まず、釣り方のコツでも述べているが、きちんと落とし込みのできる範囲のサオの長さを選ぶこと。とくにメーター規定のある釣り場では、この落とし込みができていないかいないかで大きな差が生まれる。仕掛け全般で言えば、トラブルなく使えるライン号数、エサをしっかり持たせられるハリ号数を用意すれば問題ない。ウキに関しては、ストレスなく使えるオモリ量を背負えるものをチョイスすることが大切だ。



■セッティング

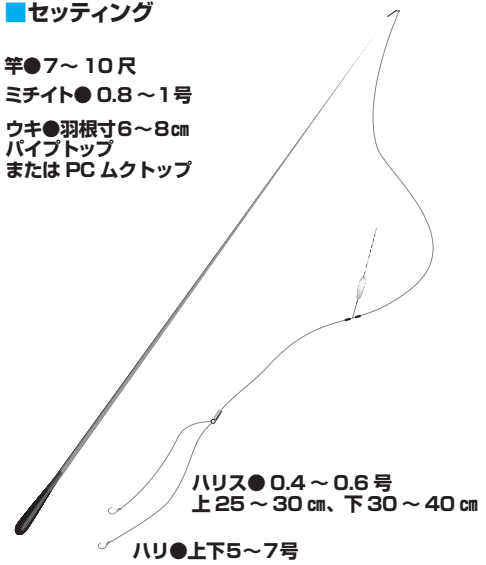
竿●7～10尺

ミチイト●0.8～1号

ウキ●羽根寸6～8cm

パイプトップ

またはPCムクトップ



両ダンゴのチョーチン釣り

①短ザオで回転よく釣るときに有効

天々400cc+ガッテン400cc+
粘カスプーン1杯+水200cc+
バラケマッハ100cc



●作り方

「天々」、「ガッテン」、「粘カ」をボウルに入れたら軽くかき混ぜ、そこへ水を注いで20回ほどかき混ぜる。そのあと、「バラケマッハ」を入れて全体をよく混ぜる。

●特徴

へら鮎が大型化している管理釣り場などで、短ザオで回転よく釣るときに効果的。大型の煽りに耐えるため、「天々」と「ガッテン」という持つタイプにさらに「粘カ」を入れて持ちを強調。そこへバラケ性のある「バラケマッハ」を入れて寄せ効果を補足している。

●使い方のコツ

ネバリのある素材を多用しているので、あまりエサをいじらずにエサ付けの圧でナジミ幅を調整したい。エサをいじってしまう傾向がある人は、エサをいじってもバラケ性をキープする「スーパーダンゴ」を「バラケマッハ」に代えるとよい。

ブレンドの考え方



練ることなく簡単にエサを持たせることができる添加剤。エサをやわらかく作っても、そのネバリの効果でギリギリまで踏ん張りのきくエサに仕上げられる。

ネバリでエサ持ちアップ



ネバリをださずにエサを持たせられるので、練り込まなくても良くまとまり、軽く仕上げることができる。他のエサの特徴を活かしたままのエサ調整が可能。

軽くして持たせるなら

ベースエサ①

天々



ヤワネバタッチが簡単に作れるチョーチン釣り用ダンゴエサ。チョーチン釣りを意識したエサ持ち、重さ、バラケ性がバランスよく設定されている。

ベースエサ②

ガッテン



「ガッテン」は、魚にもまれても、タナまでしっかり持つうえ、エサのまとまりがよく、芯がしっかりと残る。

重くして持たせる



「タンの底釣りの夏」は、重さがあるうえにまとまりもあるので、タナまでしっかり持たせたいときに最適。



バラケ性をキープ

バラケ性のある素材としてブレンドするエサは「バラケマッハ」か「スーパーダンゴ」。前者は時間が経つと重さがでるので、エサ付けがラフなひとはこちらを選んでわずりを軽減したい。エサをいじりがちなひとは、いじってもバラケ性を維持する後者をお薦めする。

両ダンゴのチョーチン釣り

②長ザオで型を揃えて釣るときに最適

段差バラケ400cc＋
バラケマッハ400cc＋
軽麩200cc＋水200cc



●作り方

「段差バラケ」、「バラケマッハ」、「軽麩」をボウルに入れたら軽くかき混ぜ、そこへ水を注いで全体をよくかき混ぜる。仕上がりはボソタッチとなる。

●特徴

「段差バラケ」は集魚とエサ持ち、「バラケマッハ」はタナを安定させることと持ち具合、「軽麩」はつなぎ役で、エサ持ちと開きを調整してくれる。

●使い方のコツ

ボソタッチのエサを大きめに付けて打っていく。硬めのエサでアタリ返しをだしながら釣っていき、型を揃えていきたい。適度なネバリがでるまで時間がかかるので、エサがなくなる少し前に次のエサを作ること。

ブレンドの考え方



きめが細かい巻を使用しているのでブレンド性抜群が高く、つなぎ役に最適。軽くバラけて、軽く芯残りする特徴がエサ持ちと開きの二役を担う。

つなぎ役



バラケ性の強い巻を配合したブレンドを硬さで持たせて使っていくが、ねらったタナまで持たすがむずかしいときは「天々」を足していく。

エサ持ちをアップ

ベースエサ①

段差バラケ



集魚性が極めて高いうえに、カラツンになりにくい超微粒子を配合。寄せてくわせるボソタッチのダンゴエサの核となるエサ。

ベースエサ②

バラケマツハ



適度な重さのある巻エサなので、ウズリにくくタナを安定させる効果がある。サラッと仕上がりで、経時変化によるネバリがでにくいのも特徴だ。

重くする



重さがほしいときは「タナの底釣り夏」を足していくが、エサがあまりすぎでは狙いと違ってくるのでかき混ぜすぎないように注意したい。

ネバリを解消



硬めのボソタッチで釣って行くことがポイントなので、必要以上のネバリはだしたくない。しかし、使っていくうちに知らず知らずにネバリこともある。そんなときは「スーパードンゴ」を足してネバリを解消しよう。

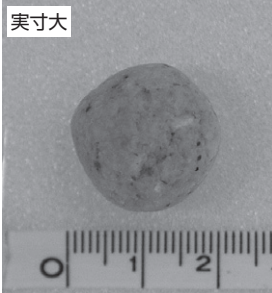
両ダンゴのチョーチン釣り

釣り方の基本とコツ

チョーチン釣りは、
選択するサオの長さイ
コールねらうタナとな
るため、くい気のある
へら鮒が多く釣れるラ
インをサオの長さで見
つけることが、まず最
初のポイントになりま
す。

魚を縦に広く寄せていき、
上から追わせていくのがこ
の釣りの基本イメージで、ア
タリ返しがありながらも深
く深くナジんでいくのが理
想です。そうすることで、下
へ下へのイメージで時合を
作ることにになり、型も揃って
くるのです。ですから、何度
アタっても深くナジむこと
が大事になってきます。

●エサの大きさ



リスでは、エサを追わせるこ
とがむずかしく、へら鮒を寄
せきれないので必然的にハ
リスは長めとなります。この
図式ができないと釣れ続か
ないのが、両ダンゴのチョー
チン釣りの本質でもあるの
です。

釣っていくうえで、ポイン
トとなる対処としては次の
2点に注意して下さい。

①ウキが立たなくなる

これに対しては単純にオ
モリ量を増やしてください。
エサで何とかしようとする
にも限界がありますので、ウ
キが立たない場面が目立つ

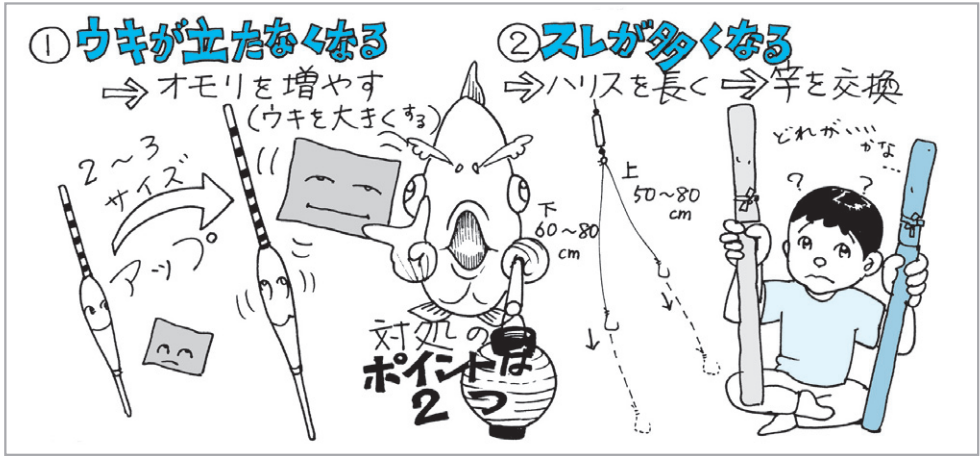


ときはすぐにウキを交換し
ましょう。ウキのサイズチェ

ンジはワンサイズでなく、2
サイズか3サイズぐらい大
きいものへの交換をお勧め
します。これは、あきらかに
オモリ量が多くならなけれ
ば効果がでないからです。

②スレが多くなる

変なアタリに手をだして
しまうことは論外ですが、い
いアタリでスレてしまうこ
ともあります。くいに来ると
カラツンもあります。ハ
リスの長さが短くてダイレ
クトにアタリがすぎてし



まっている場合もあります。スレるといふことは、いいアタリであっても食いアタリではありません。よってハリスを伸ばすことでウキに伝わる動きを鈍くし、余計なアタリを減らし、完全なくいアタリだけを演出するようになります。もし、これでもスレてくるようなら、くいの気のある魚がいまいと考へ、ならうライン、つまりサオの長さを代えていきます。

最後に、浅タナより手返しが悪いので、並びの釣り人が意識して数を気にしてしまいうと早いアタリに手をだしてしまいがちですが、この釣りは時間経過とともに地合が構築され右肩上がりになる釣りです。型の良さとダイナミックさが魅力なので、後半に良くなるという心構えで焦らずに釣っていくことを忘れないで下さい。

タックルセッティングの注意点

まずは、くいの気のあるへら鮒が多いラインをねらえるサオの長さを選ぶこと。次にへら鮒の寄りに負けないでウキが立つよう、十分なオモリ量を背負える浮力を持つウキを選ぶこと。水深を目安にするのもひとつの手だが、魚の量に合わせられるとより良い。また、へら鮒をタナへ呼び込んで釣っていくため、ハリスは必然的に長めとなる。

● **オモリ** 実寸大

竿 18 尺程度の場合
「絡み止めスイッチシンカー」1.6g +
0.25mm厚板オモリ 17×20mm

■ **セッティング**

竿 ● 8～21 尺
ミチイト ● 1～1.2 号
ウキ ● 羽根寸 10～17cm
トップ素材は使い慣れたものでOK

ハリス ● 0.4～0.6 号
上 50～60cm、下 60～80cm

ハリ ● 上下6～8号

ヒゲトロセットの浅ダナ釣り

① タナで膨らみながらバラけるタイプ

パウダーベイトヘラ400cc＋
スーパーダンゴ100cc＋水100cc



+



+



●作り方

「パウダーベイトヘラ」に「スーパーダンゴ」を加えて軽く混ぜ、そこに水を注いでから全体にややネバリがでるまで30～40回かき混ぜる。数分後にはしっとりネバタッチのダンゴになる。

●特徴

このブレンドはタナで膨らみながらバラけるタイプ。エサの重さ調整（ナジミ幅）は練りながら加減する。重さがさらに必要な場合は「ダンゴの底釣り夏」をパラパラ程度振りかけて押し練りを加える。

●使い方のコツ

これからの盛期は気温の上昇でエサのネバリも強くなる。そのため、大量にエサを作るのではなくこまめにフレッシュなエサを打つことでウキの動きも良くなる。使い方は小分けにして押し練りを加え、タッチは硬→軟に移行させながら反応を見る。重さを付ける場合には「ダンゴの底釣り夏」を足すが、これでは重すぎる場合には「グルバラ」を使用しても良い。

ブレンドの考え方



「スーパーダンゴ」を入れることで、バラケ性がアップする。ヒゲトロセットのバラケエサはくわせと寄せの効果が必要なので、最初からブレンドしておく。

寄せる・開かせる



へら鮎の寄りが多いときは、エサ持ちをより強くする。そこで「ガッテン」を入れることでよりネバリが増すのでエサ持ちが良くなる。

持たす・ネバラせる

ベースエサ パウダーベイトヘラ



「パウダーベイトヘラ」は、エサの練り加減やエサ付けの大きさ次第で、単品で幅広く使えるよう、ネバリや開きのバランスが優れたベースとなるエサ。両ダンゴはもちろん、セット釣りのバラケエサとしても使える。

重くする

盛期の釣りなのでエサが入っていないこともある。そんな場合は、エサに重さをつけてエサをナジませるようにする。「ダンゴの底釣り夏」を足すが、もしこれでは重すぎると感じたら「グルバラ」を使ってみよう。



ヒゲトロセットの浅ダナ釣り

②ネバリがあり軽いタイプ

パウダーベイトヘラ400cc＋ 天々100cc＋水100cc



+



+



●作り方

「パウダーベイトヘラ」に「天々」を入れて軽く混ぜ合わせ、そこに水を注いでややネバリを感じるまでかき混ぜる。

●特徴

このブレンドはネバリがあり軽いタイプなので、重さのあるダンゴに反応しないときに威力を発揮する。軽い仕上がりでネバリをあまり必要としないときには「天々」の代わりに「軽麩」をブレンドしても良い。

●使い方のコツ

仕上がったエサを小分けにして使用するが①押し練りでアアーを抜く②やや指先で練る③しっかり練り込む、という3パターンでネバリと重さの微調整をする。全体的に軽めのパターンなので小エサが効くときに良く、ボソッ気をださずにしっとりネバタッチで使用する。

ブレンドの考え方



軽く仕上げるのがこのブレンドの特徴だが、より軽く仕上げるなら「軽藪」を使う。この場合、ネバリが少なくなることを頭に入れておこう。

より軽くネバリを少なめ



へら鮎の寄りが多い場合は、「天々」の持つネバリを利用してエサ持ちをアップする。このときは、「パウダーベイトヘラ」300 cc + 「天々」200 cc + 水 100 ccとする。

ネバリでエサ持ちをアップ

ベースエサ パウダーベイトヘラ



「パウダーベイトヘラ」は、エサの練り加減やエサ付けの大きさ次第で、単品で幅広く使えるよう、ネバリや開きのバランスが優れたベースとなるエサ。両ダンゴはもちろん、セット釣りのバラケエサとしても使える。

重さをつけてタナを安定させる

軽いブレンドなので、エサのナジミが少し悪いなと感じたら「粒戦細粒」を50 ccを増やしたブレンドにするとよい。水量を同じで硬めに作り、手水で調整していく。これによりタナが安定する効果も得られる。

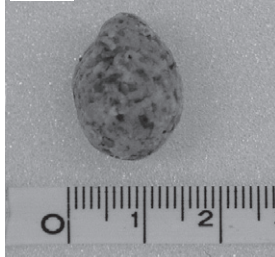


ヒゲトロセットの浅ダナ釣り

釣り方の基本とコツ

●エサの大きさ

実寸大



ヒゲトロセット釣りの基本は、ダンゴエサのバラけた粒子の煙幕にくわせエサの「ヒゲトロ」を同調させ、バラケの粒子を吸いに来たへら鮎と一緒に「ヒゲトロ」を吸い込ませることです。ですから、ハリスの段差は6〜8cmほどと、バラケとくわせを近づけておくのです。目安としては、上が8cm、下が13〜15cmで決まることが多いです。

この釣りのメリットは、両ダンゴでは釣りきれないエサ慣れしているへら鮎も釣り込むことができること。軽いエサでネバリのあるタイプとなっている。その他「パウダーベイトヘラ」をベースにして「ガッテン」をブレンドすればネバリ重視のパターンとなる。使用するハリは上バ

リに5〜6号を使用し、ダンゴの芯にまでは飛び込まないへら鮎を釣ること。ときに高釣果が期待できま

エサに関して言うと、バラケエサとは言っていますが、基本的にダンゴタッチのエサであまりバラケ性が強いものよりもしっかりとタナまで持ち膨らみ始めるような「遅開き」のタッチが良いでしょう。

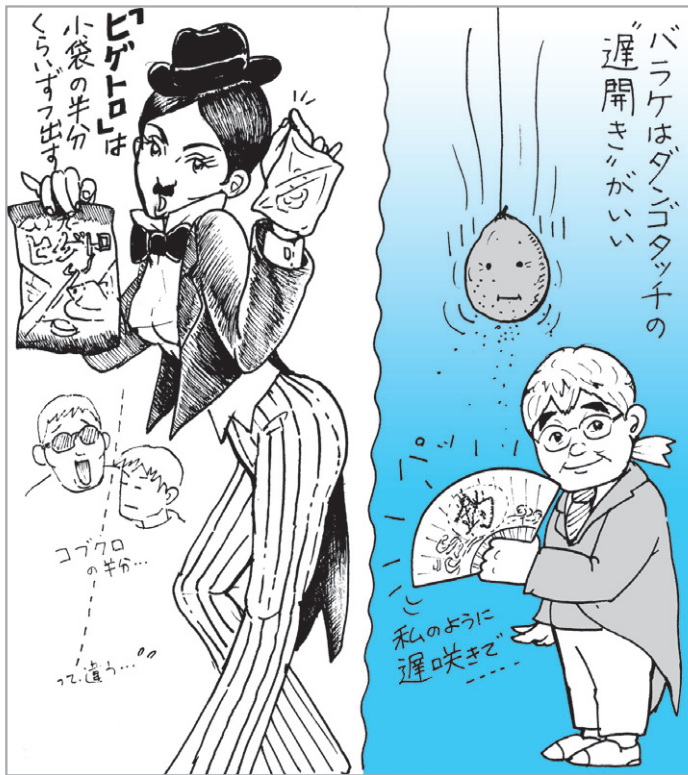
ここで紹介したブレンドパターン①は比較的バラけるタイプと比重があるタイプ、ブレンドパターン②は軽いエサでネバリのあるタイプとなっている。

●くわせエサ

「ヒゲトロ」の使い方

「ヒゲトロ」は小袋に入っているが、一度に全部を水に浸すのではなく、半分に分けて良くほぐしてから水を浸透させていく。水に浸した「ヒゲトロ」を小皿に移してひとまとまりにし、そこにハリを掛けるようにして使っていく。また、あまりトロ口には直接触れないほうが繊維も弱くならず良い。





で、バラケエサがハリ抜けし
ないようにし、くわせの下バ
リは「ヒゲトロ」自体が浮遊
するエサなので重さのある
ハリを使用すると良い。また、
「ヒゲトロ」は直射日光に当
たると繊維がやや弱くなる

ので、小袋の半分ぐらいを
目安にとりだして使用する
と良い。深くナジんでフワ
フワしながら最後にズバッ
と決めないときは「ヒゲトロ」
がハリ抜けしていることが
あるので要注意です。

タックルセッティングの注意点

タックルはほぼ平均的なもので良いが、上ハリスは太めのものを使用すればトラブルも少ない。下バリはトロロの繊維が抜けにくい形状のハリを使用したほうが良い。ウキは上エサを支えることができるためにパイブトップ仕様のものが適している。エサをゆっくりとタナに入れるイメージではなく、タナまではスツと入れた方がこの釣りは良いので小ウキよりもやや浮力のあるタイプを使用する。

■セッティング

- 竿 ● 7～10 尺
- ミチイト ● 0.7～0.8 号
- ウキ ● 羽根寸 6～8 cm
- パイブトップ



ハリス ● 上 0.5 号 6～10 cm
下 0.4 号 13～20 cm

ハリ ● 上 5～6 号、下 3～4 号

●オモリ 実寸大



0.25 mm 厚板オモリ
10 mm × 17 mm～13 mm × 17 mm

ヒゲトロセットのチョーチン釣り

①ネバリでタナまで持たせるタイプ

天々600cc＋ガッテン 200cc＋
スーパーダンゴ200cc＋水200cc



●作り方

「天々」、「ガッテン」、「スーパーダンゴ」を軽く混ぜ合わせ、そこに水を注いでかき混ぜ、全体的に水を浸透させる。指先にネバリを感じるまで30～40回ほどかき混ぜる。

●特徴

ダンゴタッチのヤワネバが特長の「天々」をベースにし、よりしっかりタナまで持たすためにまとまりのよい「ガッテン」とタナでのバラケ性をだすために「スーパーダンゴ」をブレンドした。ボソッ気がややあり、練り込み加減でエサ持ちが良くなる。

●使い方のコツ

できあがるエサの量が多いので、3分の1程度に小分けにして、手水を打ちながら硬→軟へタッチを合わせていく。チョーチンのタナにエサを入れるために小エサではなく、やや大きめにハリ付して強烈に寄せていくとよい。

ブレンドの考え方



「スーパーダンゴ」を入れることで、タナでのバラケ性がアップする。「天々」、「ガッテン」というネバリがあって持つエサの開き加減を調整する役目。

寄せる・開かせる



チョーチン釣りのタナまでのエサ持ちをより強くするために「ガッテン」を入れる。ネバリによるまとまりが最大の効果となる。

持たす・ネバラせる

ベースエサ 天々



釣れるヤワネバタッチが簡単に作れるチョーチン釣り用ダンゴエサ。チョーチン釣りを意識したエサ持ち、重さ、バラケ性がバランスよく設定され、管理釣り場から野釣りまで幅広く対応できるベースとなるエサ。

重くする・タナまでしっかり入れる

よりエサをタナまでしっかり入れたいときは、「ダンゴの底釣り夏」を足す。これにより重さとエサのまとまりがアップするので、しっかりタナへエサを入れることが可能となる



ヒゲトロセットのチョーチン釣り

②ボソタッチでタナに呼び込むタイプ

天々600cc＋
段差バラケ400cc＋水200cc



●作り方

「天々」と「段差バラケ」を軽く混ぜ合わせ、そこに水を注いでダマができないように大きくかき混ぜる。必ず手を熊手形にしてエアーを含ませながら仕上げるのがコツ。決してエアーを抜くように練り込まないようにしてフワツとしたボソに仕上げる。

●特徴

ネバリでタナまで持たせる「天々」をベースにしてエサに芯を作り、集魚性と練り加減で自在にコントロールできる「段差バラケ」をブレンド。このエサはタナに入るまで糸を引くようにエサが落下していくため、へら鮒を上層からも引き寄せることができる。

●使い方のコツ

エサを半分ぐらいに小分けして、打ち始めはややエアーを抜いて使用する。この釣りの場合“浅ナジミ”は禁物で、しっかりとウキを深く入れるように調整していく。また、エサの開きが早過ぎてすぐにウキが戻ってしまう場合は練るのではなく「粒戦細粒」を振りかけて重さを付けていく。あくまで“ネバリ”ではなく“硬さ”での調整が良い。

ブレンドの考え方



集魚性が極めて高く、バラケエサや両ダンゴのベース用としても使える「段差バラケ」。大小混じった麩の粒子を配合しているので、練り加減により、エサ持ちやバラケ性を思いのままコントロールできる特徴を持つ。ハリのフトコロに残る芯を「天々」が作るので、状況に見合ったバラけ具合を「段差バラケ」が担う。

集魚性アップ・バラケ性のコントロール

ベースエサ 天々



釣れるヤワネバタッチが簡単に作れるチョーチン釣り用ダンゴエサ。チョーチン釣りを意識したエサ持ち、重さ、バラケ性がバランスよく設定され、管理釣り場から野釣りまで幅広く対応できるベースとなるエサ。

重さとまとまりをつけて開きを抑える

ウキがナジんだあとの戻りが早いとタナにへら鮒を厚く集魚できなくなるので、しっかりナジませてウキの戻しもゆっくりめがいい。もし、ウキの戻りが早い場合は「粒戦細粒」を振りかけ、重さとまとまりをつけて、エサの開きを抑えるとよい。ボソタッチを活かすブレンドなので、練りを加えるのではなく、硬さでの調整が望ましい。



ヒゲトロセットのチョーチン釣り

釣り方の基本とコツ

●エサの大きさ

実寸大



安定したパターンにならず、また型も揃わなくなってしまう。
紹介しているブレードについて、どちらか言えば①はタナに入れてそこからサワリ↓
アタリという釣り方。

この釣りはタナに強烈にへら鮒を寄せる釣りなので、浅ナジミは禁物になる。逆にウキが沈没するぐらいにバラケエサをしっかりとハリ付けするほうが良い。
タナへ確実にバラケエサを入れることで「タナ下」に良型が寄り始めるようになり、その後、次第に上層に向かいバラケとくわせに反応するようになって釣れてくのが理想的。「タナ下」からせりあがってバラケの粒子を吸い込みながら、くわせエサの「ヒゲトロ」を吸うようなイメージだ。

しっかりナジませることを意識すると、ウキが沈没しするシーンも増えてくるが、そういう時は軽く穂先を跳ね上げるとバラケエサにテンションが掛かってバラケ性が増すので集魚効果も倍増する。
一番ヒット率が高いのは穂先を跳ね上げた後に再度ウキが徐々にナジミ込む際のツンで、このパターンで釣れると地合も作りやすい。一見変則的な釣りにも思えるが、浅ナジミではへら鮒をうわずらせることになり、強固な地合ができないので、

●くわせエサ

「ヒゲトロ」の使い方

「ヒゲトロ」は一度に全部を水に浸すのではなく、半分に分けて良くほぐしてから水を浸透させて使っていく。チョーチンのタナなので浅ダナの釣りよりもトロ口の量は多くて良い。また、裏技として「ヒゲトロ」がダメになってハリに掛からないようにするため、「ヒゲトロ」を水に浸したあと、「さなぎ粉」を振りかけて、押し練りを入れトロ口の繊維の中に押し込むと適量がハリに掛かるようになる。



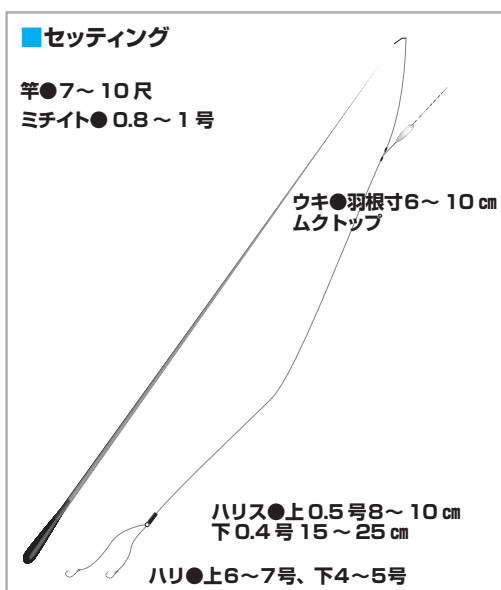
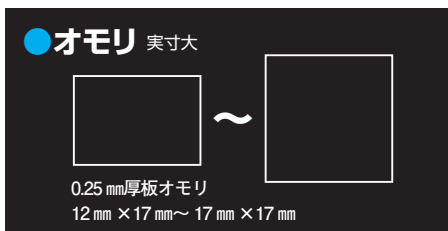


一方②のブレンドは、タナより少し上層から追わせて、ナジミ込み直後にくわせる釣りとなる。

くわせの「ヒゲトロ」はしっかりとハリ残っているの前提で、くいアタリがないときには静かに仕掛けを回収してハリ残りしているかを確認したほうが良い。また、「ヒゲトロ」を垂らす長さによって、アタリの数やヒット率が変わってくることもあるので、長め短めと色々試すことをお勧めする。

タックルセッティングの注意点

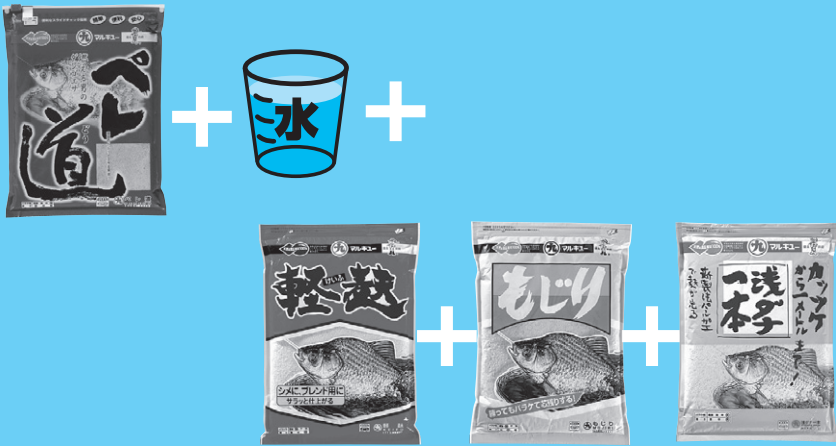
ここでは「ムクトップ」仕様のウキを使い、ストローク幅を活かすセッティングをお勧めしたい。この釣りではしっかりとウキを深く入れ、サワリがでてからくいアタリがでるとい釣りよりも、ナジミ込み直後に吸い込ませるほうが決まることが多いので、ムクトップ仕様となっている。また、ラインは糸ズレによるヨレやトラブル回避のため太いものを使いたい。



ペレットエサの宙釣り

①ペレットへの反応が強いときの重めタイプ

ペレ道 100cc + 水 100cc +
軽麩 100cc + もじり 100cc +
浅ダナー一本 100cc



●作り方

「ペレ道」をボウルに入れ、水を注いで全体にいきわたらす。5分ほどおいてから残りの麩を入れてムラなくかき混ぜる。

●特徴

「軽麩」はエサ持ち、「もじり」はネバリを防いでバラケ性をキープ、「浅ダナー一本」はエサ持ちをよくするコーティングの役目とそれぞれの特徴あるエサにペレットの集魚効果をプラスさせたダンゴエサ。

ペレットエサの宙釣り

② 麩エサへの反応もあるときのやや軽いタイプ

ペレ軽 100cc + 水 100cc +
軽麩 100cc + もじり 100cc +
浅ダナー一本 100cc



●作り方

「ペレ軽」をボウルに入れ、水を注いで全体にいきわたらす。5分ほどおいてから残りの麩を入れてムラなくかき混ぜる。

●使い方のコツ

「ペレ道」と「ペレ軽」は重さの違いとペレットへの反応の違いで使い分ける。ペレットへの反応がすこぶるよいときは「ペレ道」、麩エサへの反応も見られるときは「ペレ軽」という使い分けが一般傾向だが、分からないときは両方を打ち分けてウキの動きで判断すると良い。

ペレットエサの宙釣り

③細かい粒状ペレットが効く場合

粒戦細粒 100cc + 水 100cc +
軽麩 100cc + もじり 100cc +
浅ダナー一本 100cc



●作り方

「粒戦細粒」をボウルに入れ、水を注いで全体にいきわたらす。5分ほどおいてから残りの麩を入れてムラなくかき混ぜる。

●使い方のコツ

ペレットなら何でもよいわけではなく、「粒戦細粒」だと反応することもあり、ウキの動きのメリハリが変わってくる。また、「軽麩」を「白べら」に代えると膨らみよくアピールすることができる。

ブレンドの考え方



「軽麩」は軽くバラける特徴を持つが、芯残りもする。きめが細かい麩を使用しているのでブレンド性が高く、つなぎ効果もあり、エサ持ちにも効果を発揮する。



「もじり」は練ってもバラケ性を失わないので、ネバリがやすいペレットエサのブレンドには欠かせない。また、膨らんでバラけるので、芯残りのよいエサに仕上がる。

エサ持ち効果

バラケ性キープ

ベースエサ① ペレ道



ベースエサ② ペレ軽



ベースエサ② 粒戦細粒



ベースとなるペレットは、ペレットの圧倒的な集魚力、エサのまとまり感、特有の重さをそのまま活かした「ペレ道」、ペレットの集魚力をそのままに重さとネバリを減らした「ペレ軽」、粒状ペレットである「粒戦細粒」を使い分けるが、エサを打ってみてウキの動きが一番よいものを選ぶことが分かりやすい方法だ。

膨らみを強調



エサをいじっていてもバラケ性を失わない「白べら」を「軽麩」に代えてブレンドするとより膨らみが強調できるので、アピールが増す。また、経時変化によるネバリ防止効果も高い。

エサをコーティング



「浅ダナー一本」はソフトなネバリと、軽い仕上がりでエサ全体をコーティングしエサ持ちをアップしている。膨らむようにバラけるのは、「軽麩」と「もじり」にも共通した特徴でペレットエサのブレンドに必須の要素である。

ペレットエサの宙釣り

釣り方の基本とコツ

通称「ペレ宙」と呼ばれるこの釣り方は、エサの重さと集魚を利用して沖めで警戒心の薄い大型をならう代表的な釣りのひとつです。

現在の管理釣り場はどの池も魚の大型化が進み、わざわざ長ザオをださなくても手前で良型が釣れるようになってきました。そこで、短いサオで釣れるほうが、手

返しやエサ打ちの正確性などトータル的に考えると釣りやすく、以前までの大きいウキ・大きいエサから小ウキ・小エサへ変わってきているのが現状です。

ただし、混雑具合や並びの釣り人との兼ね合いなどで、まだまだ沖めをならう釣り方は有効ですので、状況に合わせてサオの長さを選択して下さい。できれば、並びより少し長いサオを選ぶことをお勧めします。

ならうタナは1〜2mなので釣り方のイメージは浅ダナの釣りと思われがちですが、実際はチョーシン釣りに近いイメージを描いて下さい。つまり、沖めでチョーシン釣りをする感覚で、エサを入れて入れてアタらせて釣っていく型を揃えるというのが、この釣りの全体像です。

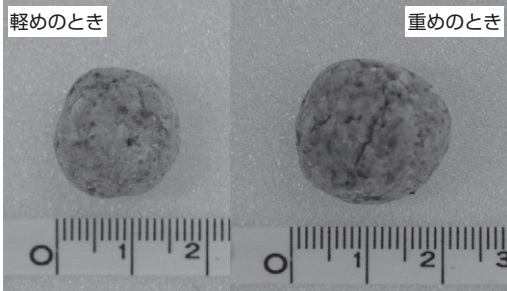
ペレットエサを使う最大のメリットは、重さと寄せでタナを安定させられることです。釣れてくる魚が黄色味がかかったコロコとした魚体ならば目方も稼げ、またダイナミックなウキの動きで釣っていきけるこの釣りの理想的な展開になれば、そこそこ心躍るような面白い釣りを堪能できますし、時間が経てば経つほど爆発するかもしれないというギャンブル性も、ひとつの魅力です。

ただ、こまかいセツティングの難しさをエサの強さで超えられる反面、魚任せの釣りになってしまう危険も併せ持っています。ですから、サオの長さやねらうタナを変えていくことも重要です。

ペレットの釣りでは、その日の魚がペレットに反応しているのか、魅エサに反応しているのかを見極める

ことがポイントで、それによりエサも変えていかなければなりません。簡単に言うと、ペレットへの反応が強いときはエサが黒っぽくなり、魅エサへの反応が強いときは白っぽくなります。ですから、ブレンドで紹介している3パターンを打ち分けて、反応を見るのが大事なのです。エサの調整ですが、持たな

●エサの大きさ 実寸大



いときはペレット系を足していきます。ですがあまり入れすぎると重くなり、ネバリも強くなってしまいます。少しだけエサを堪能させた程度のおときは「軽魅」や「浅ダナ一本」を足しましょう。エサが持ついてカラッパが目立つようでしたら膨らみ不足が考えられますので「もじり」を足していきます。

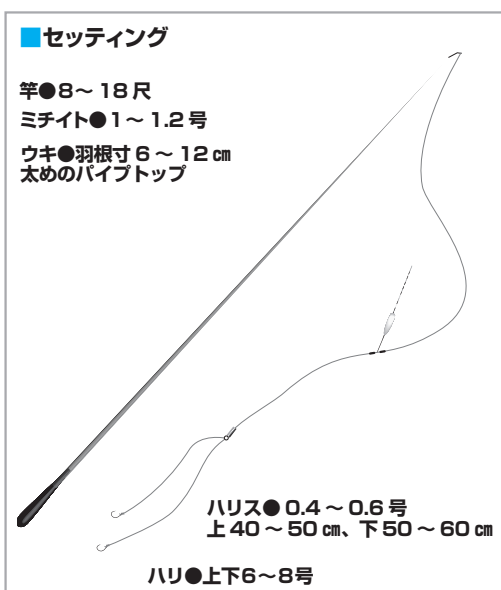
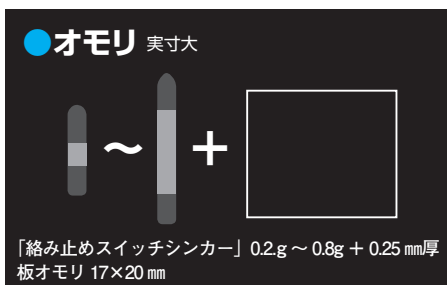


ペレットエサの効果は絶大なものがあります。普段使わない方も、軽いエサではダメな場面は多くあります。試してみても良いでしょう。

よくな場面にでくわしたときは、ペレットのエサを試してみても良いでしょう。

タックルセッティングの注意点

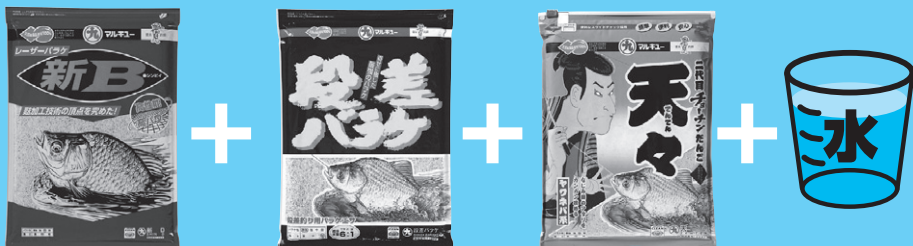
良型を描えていく釣りなので、全体的にしっかりした大きめ、太めのセッティングを描えたい。エサをタナへしっかり入れていけるように充分なオモリ負荷量を持ち、重いペレットを背負える太めのトップのウキを用意したい。また、釣り方のところでも触れているが、チョーチン釣りの感覚で釣っていくので、浅ダナに比べ長めのハリスとなる。



一発セットのチョーチン釣り

集魚効果最強レベルの強烈バラケ

新B400cc + 段差バラケ400cc +
天々400cc + 水200cc



●作り方

「新B」、「段差バラケ」、「天々」を軽く混ぜ合わせ、そこに水を注いでかき混ぜて硬ボソに仕上げる。エアを十分に含んだ仕上がりとするため、サラサラに仕上げるのがコツ。

●特徴

集魚性の極めて高い「新B」と「段差バラケ」をベースにしているのので、タナに厚く寄せることができる。また、エアを十分に含んだエサなのでエサが膨らみ始めてからも強烈に寄せることができる。

●使い方のコツ

できあがるエサの量が多いので、半分位を小分けにして使用する。常にサラサラに仕上げておき、ボソのエサを大きめに握るようにして形を作り、ハリを上からエサのセンターに差し込んで使用する。

ブレンドの考え方

ベースエサ① 新B



強力に寄せ、散らさない荒粒子の麩を配合。タナを安定させる重さと強力な集魚パワーを持ったバラケエサ。経時変化が少なく、独特なタッチでタテ、ヨコにバラける。

ベースエサ② 段差バラケ



カラツン防止の微粒子を配合した最強の段差釣り向けバラケエサ。集魚性が極めて高く「新B」との組み合わせは、寄せに関しては最強コンビとなる。

エサをまとめてタナまで持たせる



バラケ性の強い「新B」と「段差バラケ」をベースにしているのので、エサを持たせる役目としてネバリのある「天々」をブレンドしている。

開きを抑える

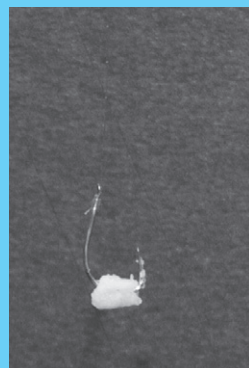


バラケの開きが早すぎてウキの戻しが早くなってしまうときは「ペレ道」を振りかけ、重さとネバリを強くしていく。

●くわせエサ

「一発」の使い方

くわせエサの「一発」は各サイズがあるので状況に合わせてセレクトするようになるが、比較的「ミクロ」のような小さいもののほうが吸い込みは良い。注意する点はハリに差す前に指先でややもむようにすると腰がでてハリ抜けしにくくなる。また、「一発」を「さなぎ粉」に浸したりする方法で集魚性を高めることもある。

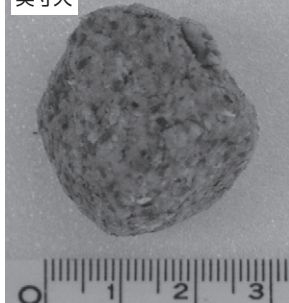


一発セットのチョーチン釣り

釣り方の基本とコツ

●エサの大きさ

実寸大



この釣りの基本は、タナで強烈なバラケの煙幕を作り、その中にくわせエサの「一発」を入れて一緒に吸い込ませるイメージだ。

そのため、大バラケを強めにハリ付けしてしっかりとなじませて釣ることになる。浅いナジミ幅やすぐにハリ抜けしてしまわないように、ボンエサのエアーを抜きながら沈没する位までウキを入れるようにする。早いタイミングでくうときなどは上エサの硬ボンバラケが付いたまま上がってくることもあるが、その位しっかりした

エサにするのがコツになる。また、どうしてもエサの開きが早くなつてウキの返りがでてしまうときには「ペレ道」を振りかけながら重さとネバリを付けていくと良い。

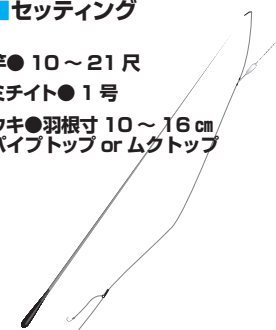
アタリは、「一発」を吸い込んで持っていくような大きな強いものが本線。小さい変化に手をだしてスレさせてしまうと、寄せたへら鮒を散らしてしまうので注意したい。また、縦誘いを駆使しバラケ性を促進させて釣っていくテクニクも効果的である。

■セッティング

竿● 10～21 尺

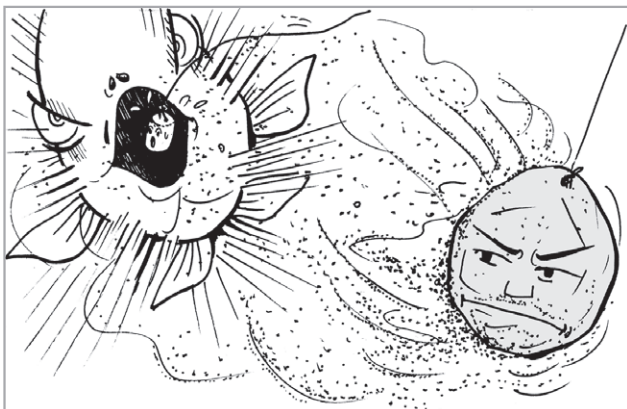
ミチイト● 1号

ウキ●羽根寸 10～16 cm
パイプトップ or ムグトップ



ハリス●上 0.5号 10～15 cm
下 0.3号 60～90 cm

ハリ●上 7～8号、下 1～2号



●オモリ 実寸大

+

竿 18 尺程度の場合
「絡み止めスイッチシンカー」
1.2g + 0.25 mm 厚板オモリ 17
× 25 mm

タックルセッティングの注意点

竿は釣り場の水深や釣れているタナで異なり 10～21 尺位が必要になることもある。その他は一般的なタックルで良いが、下ハリスだけは 0.3～0.35 号を基準にして吸い込みやすさをアピールする。そのためくわせ用の下バリも小さいものが良い。

釣果、弾ける!

いよいよ、ペレット系両ダンゴで大釣りが望める時期。
管理池の傾向に合わせて、長竿を使わずに釣っていくなら、
通常の両ダンゴ感覚で使える「ペレ軽」がある。
軽めながらも適度な重さで、狙いの層まで届き、
ペレット特有の集魚力で、次々とへら鮒を寄り込む。
しかも、強いアタリも数多く出している。
昨年すでに実績のある「ペレ軽」で、
今シーズン、数・型ともに満足の釣果を。

実績充分! 浅ダナ両ダンゴ時のオススメブレンド。

- 魚の寄りがきつとき
「ペレ軽」400cc+水100cc
- 軽くて持たせたいとき
「ペレ軽」200cc+
「ガッテン」200cc+水100cc
- 軟らかめで使いたいとき
「ペレ軽」300cc+
「BBフラッシュ」100cc+水100cc



●ペレ軽 400g チャック袋

丸マルキユー株式会社

〒363-8509 埼玉県桶川市赤堀2-4 TEL.048-728-0909
ホームページアドレス <http://www.marukyu.com/>

マルキユーへら鮒メールマガジンも、お申込はこちらから。 <http://www.marukyu.com/herabunatengoku/>

釣れるヒント満載!!
へら鮒天国

